
『声』

黒蜜飴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『声』

【Nコード】

N2942E

【作者名】

黒蜜飴

【あらすじ】

かれのこえは、いつしゆの麻薬だ。何度だってわたしをあの場所へむかわせる。きょうもまた、『ひみつのばしょへ』。あなたの『こえ』だけを、求めて。

やさしい、こえがする

あまい、あまい

あなたのこえが

「サキっ！」

寒く冷たい廊下で、馴染みの深い、暖かさをもった声に名前を呼ばれて振り向いた。

「…なっちゃん。」

「今日も残つてくの？まだ期末も近くないのに、こんな、毎日勉強なんて…志望校でもかえた？」

なっちゃんの優しい声はわたしを弱くさせる。

甘いお菓子みたいなふわふわの髪が揺れて周りの空気が染まってゆく。

「…ううん。違うの。前の中間の点数やばくて、親にけっこう言われてさ。だから今回の見返してやろうかなと。」

うそ。

「へ…サキの親って普段あんまそんなこと言わないのにね。」

「うん…。ね。さすがに来年受験生の娘をこんなにほったらかした自分に、焦りでもしたんじゃない。」

これも、うそ。

「ひつどいな…それ。親の都合に振り回される子供の身にもなつて欲しいよね…ほんとに。ま、あんまり根詰めないようにね。中間はよくなかったのかもしれないけど、サキ。そんな悪い成績でもない

んだから！」

ありがとう、と力無く笑って大嘘つきのわたしは、何度めかもわからない『ひみつのばしょ』へ今日も足を向かわせた。

呼吸を落ち着かせて図書室の前に立つ。

周りに誰もいないか確認してドアに手をかけた。

…よかった。

まだ、きてないみたい。

まだ寒い日が続く、2月の終り。

人の温もりのない放課後の図書室は、身震いするほど寒い。

いたら困るけど、誰かひとりくらい読書しててもいいのに、と毎度、ぼんやり思っで、自分もその部類に入る事がないくせに、と毎度、

苦笑しながら奥の本棚へと進む。

一番大きな本棚の奥が絶対に誰にも見つかることのない、『ひみつ
のばしょ』

狭くてほこりっぱいにおいにも随分と慣れた。

きょうもこの場所で

かを待つ。

いとしい
いとしい

こえを、待つ。

「…ちぎ…」

きた。

あたたかさを持ったこえが入口から流れ込んでくる。

近づいてくるこえに呼吸することも忘れて、耳をぎゅっと澄ます。

「ちぎ…？」

かれの、こえがすきだ。

静けさだけを張り詰めさせた空間で響くこえは、とくべつ。

「…さき…いないのか？」

気づかれないよう、注意深く囁くこえが深さを増す。

まるで

耳元で囁くように。

「ちぎ...どじっ?」

切なく響くこえが胸を締めつける。

呼ばれるたび、鼓動が跳ね上がり、冷え切った身体が熱を持つ。

もっと

もっと

もっと、よんで

「どじっ?...ちぎ」

なまえが色をもって、繰り返し放たれる。

あたたかさを持った低いこえが、空気をそめあげてゆく。

すきになったひとのこえって、どうしてこんなに甘く響くのだろう。

くるしくて、いとしくて

いきが

できない

からだが、こえに

縛られてゆく。

「ちぎ…？」

いとおしそうに呼ぶこえが

「…ちぎ。」

彼女を、つかまえた。

「おそかったな…咲。」

「ごめんね…ちょっと友達と話してて…。」

「誰…？」

「サキだよ…。同じクラスの。」

「…ああ…。おまえと、同じ名前の…。」

「なっちゃん…て、呼んでくれるの…サキは…。」

「…おまえの事。…名前で呼ぶの…俺だけで…いいし。」

かれのこえがすき。

どうしよつも、なく。

いとしいこえが
違う名前を呼ぼつと

あの、しゅんかんだけ

かれのこえは

わたしのなまえをよぶ

いつもの時間

『ひみつのばしょ』で

いとしい
いとしい

こえを、待つ。

わたしは

ひとり

こえを

待つ。

やさしい、こえがする

あまい、あまい

あなたのこえが

（後書き）

拙い文章を最後まで読んで頂き、ありがとうございました。この短編が処女作となります。感想を頂けるととてもしあわせです。後書きまで読んで頂きありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2942e/>

『声』

2010年12月29日14時20分発行